

<研究ノート>

## モンゴル語文法研究ノート (3) Some notes on Mongolian grammar 3

風間 伸次郎  
Shinjiro Kazama

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿は3つの文法書の記述を検討する中で見出されたいくつかの問題点を主にコーパスにより調査し、その結果に対する母語話者の内省も伺うことにより、それらの問題について現時点での若干の分析を行った研究ノートである。

**Abstract:** This paper is a research note that examines some of the problems found in the description of the three grammars, mainly by examining the corpus and asking native speakers for their reflections on the results from the corpus, and provides some current analysis of these problems.

**キーワード:** ハルハ・モンゴル語, 内省, コーパス, アスペクト, 聞き出し

**Keywords:** Khalkha Mongolian, introspection, corpus, Aspect, elicitation

### 1. はじめに

本稿ではモンゴル語（ハルハ・モンゴル語であるが、以下では単にモンゴル語とする）の文法的な諸問題に関して、主に3つの文法書の記述（モンゴル国立大学モンゴル語研究室（編）(1989) および山越(2022)、中嶋(2015)）で筆者が注目した点をいくつか取り上げ、それらについてのコーパス調査を行い、話者の内省も参考にしつつ帰納的にその共時的な状況を観察・記述することを目的とする。

コーパスは Mongolian National Corpus (Corpus Technologies が2007年から2009年にかけて開発したウェブコーパスで、総語数は1,160,000語) である。このコーパスでは\*XやX\*, \*X\*と入力して検索することで問題の形式Xの前後に何らかの要素のある形を検索することもできる。本稿ではこの\*XやX\*, \*X\*のような検索に用いた形式の表記も用いることにする。なお意見を伺った話者は1989年 Övörxangaj 県生まれの方と1989年 Zavxan 県生まれの方の2名である。日本語訳に関しても話者に御教示をいただいたが、本稿における誤謬は全て筆者の責に帰するものである。モンゴル語の単語の語積はもっぱら小沢(1983)に拠った。先行研究からのもの以外の例文は基本的にコーパスにあったものである。

モンゴル語の文例等はキリル文字による正書法からローマ字に翻字して記した。その翻字は次のような方式に拠っている: a=a, б=b, в=v, г=g, д=d, e=je, ё=jo, ж=ž, з=z, и=i, й=j, к=k, л=l, м=m, н=n, о=o, ө=ö, п=p, р=r, с=s, т=t, у=u, ү=ü, ф=f, х=x, ц=c, ч=č, ш=š, ш=šč, ь="', ы=y, ь='', э=e, ю=ju, я=ja。形態素における大文字は母音調和による異形態のあることを示す。

なお今回本稿で扱った文法的な問題は場所名詞のとり格、焦点小詞の語順、否定形、アスペクト、証拠性、反語、動詞複合体における接辞の相互承接などであり、10のテーマを取り上げた。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

## 2. uragš, ömnö, xojš, xojno の前の名詞の格

モンゴル国立大学モンゴル語研究室 (編) (1989: 65) では「時間および場所 (空間) を表す xojš 「北へ、後ろへ (に)、あとで」 (xojno 「北、後、北に、後に、(時間的に) 後に」), uragš 「前へ、南へ、南に」 (ömnö 「～の前に、～より前に、～より先に」) の前には奪格がくる、ただし xojno, ömnö の前には属格がくる場合もある」としている (なお各形式の日本語訳は筆者が補ったものである)。

そこでコーパスで調べてみると、[(N)-GEN ömnö] (-yn/-ijn<sup>1</sup> ömnö) が 571 例現れたのに対し、[(N)-ABL ömnö] (-aas/-ees/-oos/-öös ömnö) は 63 例、[(N)-GEN xojno] (-yn/-ijn xojno) が 21 例現れたのに対し、[(N)-ABL xojno] (-aas/-ees/-oos/-öös xojno) は 4 例であった。さらに [(N)-ABL xojno] の 4 例を検討したところ、奪格名詞が xojno に係っていない例や、奪格名詞ではない -oos の形の例を捨てていたなどの理由から、実際の例はそのうちの 1 例のみであった (下記の(1))。したがって ömnö の前に奪格のくる例は若干はあるものの属格よりもはるかに少なく、xojno の前に奪格がくる例はほぼ皆無であることがわかる。話者によれば、この出現比率は話者の内省にも合致しているという。

- (1) Ter        ödr-öös    xojno    jaa-g-aad        č        jum        ezgüj    jav-aad,  
 (s)he      day-ABL   after      do.what-E-CVB.PFV   CUM      thing      absence   go-CVB.PFV  
 「彼はその日の後、なぜかはわからないが留守にして」

話者によれば、上記 (1) の例文では xojš を用いた方が自然に感じられるという。xojš の前には奪格がくるので、[(N)-GEN xojno] vs. [(N)-ABL xojš] のような棲み分けになっているのかもしれない。

さらに話者によれば xojno よりも xojš を使うことの方がはるかに多いという。そこで両者の出現頻度を調べてみたところ、xojš は 761 例、xojno は 474 例であった。したがって少なくともこのコーパスでは両者ともによく使われている。ただ使用したコーパスは文学作品を中心とした文語的な性格を持ったものであるため、口語における話者の感覚とは少し異なっているのかもしれない。

Övörxangaj 県出身の話者によれば、[(N)-GEN xojno] と [(N)-ABL xojš] の意味の間には重なる部分もあるが異なる部分もあるように感じられるという。Zavxan 県出身の話者によれば、[(N)-GEN xojno] は空間的な意味で、[(N)-ABL xojš] は時間的な意味で使われることが多いように感じられるという。そこで \*ijn xojno で検索すると 16 例得られるが、そのうち 11 例が žil-ijn xojno (žil 「年」) であり、\*aas xojš で検索すると 171 例得られるが、V-s(a)n-aas xojš が 89 例、cag-aas xojš (cag 「時」) が 30 例を占めていた。きわめて限られた調査ではあるが、この結果をみる限り、[(N)-GEN xojno] と [(N)-ABL xojš] のどちらも時間的な意味の例を多く示している。両者の違いについては今後さらに丁寧に研究する必要があると考えている。

## 3. č と l の連続

山越 (2022: 197) は、累加を示す小詞 č と限定の小詞 l について「用いられる環境が似ており、また意味も対称的であるため、両者が同時に一つの語の後ろに続くことは稀である、実際 lč という順序で起こることはないが、čl という順で「～であっても、～でさえも」という意味で用いられることはある」

(筆者要約による) としている。山越 (2022: 197) では次のような例を挙げている (グロス は筆者、訳は山越 (2022) による)。

- (2)        bi        č        l        ujl-čix-san.  
           I        CUM      FP        cry-COMPL-PTCP.PFV  
           「私できえ泣いてしまった」

<sup>1</sup> これ以外の異形態、すなわち -y, -ij, -n などは今回検索の対照にできなかった。

検索してみるとやはり 1č の順序での例はなく、他方 č1 という順序での例は 35 例あった。ただし、そのうちの 1 例は間違いと思われる。残る 34 例のうち、33 例は疑問代名詞に後続する例で、さらにそのうち 26 例は juu č1 gesen 「何はともあれ、とにかく」という句であった。

- (3) Juu č 1 ge-sen xojoulaa tavin xüüxed-tej  
 what CUM FP say-PTCP.PFV by.two fifty child-PROP  
 xičeele-ne dee.  
 give.lessons-IND.FUT SFP  
 「とにかく 2 人で 50 人の子供と授業をするね」

- (4) Juu č 1 ge-sen minij exner.  
 what CUM FP say-PTCP.PFV I.GEN wife  
 「(他の人が) 何と言おうと私の妻だ」(話者によれば、自分の妻をかばってという発言だという)

- (5) Za juu č 1 bol erüü-g-ee xamxi-ad  
 intj what CUM FP become.IMP<sup>2</sup> chin-E-REFL close-CVB.PFV  
 l suu-ž baj,  
 FP sit-CVB.IPFV be.IMP  
 「さあ何が起ころうと口を閉じて座っている」

juu č1 gesen 以外の他の疑問詞への後続の例は、まず juu č1 に別の語句が続くものが 2 例、jamar č1 が 4 例 (うち 2 例が jamar č1 gesen、jamar は「どんな」の意)、xen č1 が 1 例 (xen は「誰」の意) であった。

- (6) Övöö n' am'd baj-x-a-d jamar č 1  
 grandfather 3POSS alive be-PTCP.IPFV-E-DAT what.kind.of CUM FP  
 baj-san, odoo-g-ijn-x-oos-oo az žargal-taj  
 be-PTCP.PFV now-E-GEN-ADJLZ-ABL-REFL lucky happy-PROP  
 baj-sn-yg xuu sajn uxaar-č baj-v.  
 be-PTCP.PFV-ACC very good understand-CVB.PFV be-IND.PST

「祖父が生きていた時にはどんなであったとしても今よりもずっと幸せだったことをよくわかっていた」

- (7) Ter ajuul nüürl-e-x-e-d xen č 1 xaa  
 that danger encounter-E-PTCP.IPFV-E-DAT who CUM FP where  
 negtee-g-ees xarv-a-n ir-ž bol-o-x  
 one-E-ABL shoot-E-CVB.SIM come-CVB.IPFV become-E-PTCP.IPFV  
 gajxamšg-ijg xaruulda-n baj-x ažguu.  
 miracle-ACC hope-CVB.SIM be-PTCP.IPFV SFP

「その危機に直面しても、誰であろうとどこかから起こり得る奇跡を期待して待っているべきだ」

<sup>2</sup> なお Zavxan 県生まれの話者によれば、juu č bolson である方が自然であるという。

疑問代名詞以外に後続していた唯一の例は次のものである。

- (8)      xen                      neg-tej    bod-son                      sana-sn-aa  
           who                      one-PROP think-PTCP.PFV                      feel-PTCP.PFV-REFL  
           delge-n                      suu-maar                      č                      l                      bod-o-gd-o-x                      jum.  
           spread-CVB.SIM                      sit-PTCP.OPT                      CUM                      FP                      think-E-PASS-E-PTCP.IPFV                      thing  
           「(誰でもいいが) 誰かある人に自分の思い感じたことなどを膝を突き詰めて心を開いて話したい  
           とさえ思われるのだ」

このように、コーパス調査の結果によれば、č l の連続には疑問詞に後続して譲歩を示す例が多く、特に juu č l gesen という句で用いられることが多いということがわかった。

話者によれば、その際 juu č gesen と l を取り除いて意味に変わりはないが、č の方を取り除くことはできないという。jamar č l gesen に対し、jamartaj č l gesen という句もよく使われるという（この場合も l はなくともよいが、(6) の jamar č l bajsan から l を取り除くことはできないという）。コーパスでは現れなかったが、話者によれば指示代名詞や人称代名詞に č l が後続する例はよく聞かれ、特に「(他の人に対して) 私も～」という時には č とほぼ同義でより長い形式である čig を用いた bi čig l... という句がよく使われるという。なお čig を検索すると 123 例ある (č は 11,423 例)。

#### 4. 無用形動詞 -ltgüj

中嶋 (2015: 85) は -ltgüj について、「《～するのは無用である》、《～するには及ばない》を意味する形動詞である」とし、次のような例を 3 つ示している（訳も中嶋 (2015: 85-86) による、一部省略、グロス は筆者による、-ltgüj のグロスは -LTGÜJ とした）

- (9)      Sanaa      zov-o-ltgüj                      ee                      xö.  
           thought    suffer-E-LTGÜJ                      SFP                      SFP  
           「心配ご無用さ」
- (10)      Tand      setgel      zovo-ltgüj                      bol-loo.  
           you.DAT    mind      suffer-LTGÜJ                      become-IND.PFV  
           「あなたに心配をかけることはなくなりました」
- (11)      Tüünij                      čin'                      čamaar    xel-üül-e-ltgüj  
           (s)he.ACC                      2POSS                      you.INS    say-CAUS-E-LTGÜJ  
           ax                      n'                      sajn                      med-e-ž                      baj-na.  
           elder.brother                      3POSS                      good                      know-E-CVB.IPFV                      be-IND.FUT  
           「それを君に言われなくても、兄さん (=私) はよく知っています」

やや特殊な意味の接辞であり、これをとる動詞は一定の偏りを見せるのではないかと考え、この形式を検索してみることにした。例は 163 例得られた。以下に 3 例以上あった動詞を多い順に示す: tasar- 「切れる、(習慣的動作が) 行われぬ、成就されない、解決される、(供給が) 止まる、とだえる」 58 例, zov-例 「苦しむ、悲しむ、嘆く、心配する」 18 例, zogs- 「(行動しているものが) 行動がなくなる、止まる」 15 例, aj- 「恐れる、怖がる」 11 例, buc- 「帰る、戻る、打ち消す、否認する、思い直す」 6 例, ge- 「言う」 6 例, xel- 「言う」 4 例, xaa- 「閉める、妨げる、勤め上げる」 3 例, erge- 「回る、回転する、訪問する、戻る、帰宅する、見舞う」 3 例, öörčil- 「別ものにする、変える、改める」 3 例。

「途切れるには及ばず」のような表現が多く、他に感情動詞や発言の動詞があり、「悲しむに及ばず」「恐れるに及ばず」「言うに及ばず」などの表現が形成されるものと考えられる。発言の動詞を除けば、いずれも何らかの状態変化を伴う動詞であると言えそうである。

## 5. -v の直接証拠性

Janhunen (2012: 245) は durative (-nA) と terminative (-v) は主語の人称に関わらず用いられるとし、証拠性とは関係がないとみている。

一方、モンゴル国立大学モンゴル語研究室 (編) (1989: 49) は「動詞語幹に-IAA および -v という動詞の終止形語尾を接続して、過去時制を表す。両方とも、発話者が自ら行ったり参加したりした動作・行為、あるいは自分の目で見たりした動作・行為を表す。この点 -žee, -čee とは基本的に異なる」とし、-v も直接証拠性を示すとみている。

さらにモンゴル国立大学モンゴル語研究室 (編) (1989: 50) では「-v は疑問文でのみ口語でも文章語でも用いられ、平叙文は文章だけにしか用いられない。ただし、-v の次に bololtoj などの語がくると、平叙文でも口語で用いられることがある」としている。bololtoj は話者による外面からの観察を明示する語であるので (bololtoj の機能に関しては、風間 (2013: 91) も参照されたい)、直接証拠性の形式であることと矛盾しない。

文法書における -v の疑問文の例をみる限り、2 人称主語のものばかりである。3 人称主語の疑問文が口語でどの程度可能なかを検証する必要があるが、もし 2 人称に偏るならそのこともこの形式の証拠性的な特性を示しているものと考えたい。

そこでまず -v が bololtoj を伴っている例をコーパスで検索してみると 104 例得られた。当然ながら外からの観察であるため 1 人称主語の例は少ないと考えられるが、見いだされた例における 1 人称の行為は無意志のものであった。

(12)	Bi	č	öngör-ö-v	bololtoj.
	I	CUM	pass-E-IND.PST	seem
	「私は (これで) 終わりそうだ」			

次に -v uu/üü でコーパス検索を行った (実際には \*v uu/\*v uu?/\*v üü/\*v üü?) で検索を行った。合計で 325 例が得られたが、このうち -v uu が 240 例、-v üü が 85 例であり、-v uu の 240 例のうち 67.5% にあたる 162 例は bolov uu<sup>3</sup> であった (-v üü には動詞の顕著な偏りは見られなかった)。

そこで上記の結果を踏まえつつ、話者に下記のような文に対する内省を伺った。

(13)	a.	Ter	xool-oo	id-e-v	üü?	
		(s)he	meal-REFL	eat-E-IND.PST	QP	
		「あの人はごはん食べた？」				
	b.	Ter	xool-oo	id-sen	bol-o-v	uu?
		(s)he	meal-refl	eat-PTCP.PFV	become-E-IND.PST	QP
		「あの人はごはん食べたのかなあ？」				

まず(13) a. の質問文は、Ter「あの人が食べたかどうかを知っていると話し手が考えている人に尋ねる文であるという。これに対し (13) b. は独り言で発話してもよく、話し手が聞き手に尋ねる際には、話し手は聞き手がその答えを知っているかどうかについて特に何の期待も持っていないという。したが

<sup>3</sup> 岡田・向井 (2006) の〈モダリティ(7) 疑い・確認〉(〈〉内はステップ名) には、形動詞形に後続する bol uu に関して「自問：～かな」を示すモダリティ表現であると記述されている。

って文の中核にある語彙的意味を示す動詞が直接 -v を取って文末述語となっている (13) a. の方では聞き手の直接体験を前提としているものと分析できる。

次に bololtoj に先行する述語が -v である場合と -sAn である場合に違いがあるかを聞いてみた。

- (14) a. Ter ir-e-v bololtoj.  
 (s)he eat-E-IND.PST seem  
 「あの人は来たみたいだ」
- b. Ter ir-sen bololtoj.  
 (s)he eat-PTCP.PFV seem  
 「あの人は来たみたいだ」

Zavxan 県生まれの話者の方の内省によれば、話し手は Ter 「あの人」が来るべき現場にいて、実際に発話の時点のすぐ前に Ter 「あの人」が来たようだ判断した際にこの (14) a. の文を発話するという。これに対し (14) b. では、話し手は必ずしも Ter 「あの人」が来るべき現場にいる必要はなく、Ter 「あの人」が来てからしばらく時間が経った状況でもこの文を発話できるという。したがってここでも -v のもつ直接体験的な性質が観察される。

-v のもつ直接体験的な証拠性については、今後さらに丁寧に検討していく必要があると考えている。

## 6. jav- の示すテンス・アスペクト

モンゴル国立大学モンゴル語研究室 (編) (1989: 38) には「現在および未来時制を表す動詞の終止形語尾 -nA も、現在進行時制を表すことがある」として、次のような例文をあげている。

- (15) Tend neg mašin jav-na.  
 there one car go-IND.FUT  
 「あそこに 1 台の車が走っています」

小沢 (1983: 605) には「jav-は「行く」という動作を始動相、過程相でとらえるのに対し -oč- は到達相に於いて捉える」として、jav- が独自の語彙的アスペクトを持っていることが窺われる。

中嶋 (2015: 83) によれば、「継続形動詞 -AA の限定修飾用法は、《～しているところの》を意味する、ただし -AA の付加だけで継続状態を表すのは baj-, suu-, jav- の 3 つだけでその他の動詞は -ž baj-gaa 《～している》などとする」とあり、やはりここからも jav- が語彙的に特殊なアスペクト的性質を持っていることが窺われる。もしこのことが正しいとすれば、ふつうは現在進行を示す補助動詞 -ž bajna がついた場合に、jav- は他の一般的な動詞とは異なったアスペクト的振る舞いを示すことが予想される。

そこで「javž bajna は習慣をはじめとする一定の時間の幅を持った行為／動作でないと示せない」、という仮説をたててコーパス検索を行った。その結果、javž bajna の例を 90 例得ることができたが、その多くは習慣の例のようである (網羅的な分析は今後の課題である)。

話者には次の(16)の文が現在の進行を示せるかを訊いた。話者によれば、上記の(15)と同じ意味で(16)も現在進行中の行為を示すことができるという。ただし世代差があり、若い人は(16)を用い、年輩の方は(15)を使っているように感じられるという。したがって、他の動詞からの類推によって、現在進行の意味では近年 javna ではなく javž bajna の使用がより一般的になって来たという可能性も考えられる。

- (16) Tend neg mašin jav-ž baj-na.  
 there one car go-CVB.IPFV be-IND.FUT

## 7. ügüj による存在の否定

山越 (2022: 153) では「ügüj は「ない」ことをあらわし、否定文を作るだけでなく、形容詞としても用いられる」(筆者要約による) とし、次のような例を挙げている (訳も山越 (2022) による、グロスも筆者による)。

- (17) Adilxan ceceg neg č ügüj.  
same flower one CUM nonexist  
「同じ花は一つもない」

- (18) Činij ezgüj-d žargal ügüj.  
you.GEN absence-DAT happy nonexist  
「君がいなければ喜びなんてない (直訳: 君の不在に喜びはない)」

存在の否定には他に bajx=güj や alga も使われることが知られているが、ではこれらと ügüj のみによる否定との間にはどのような違いがあるのだろうか。そこで ügüj. (ドットを含む文末の ügüj) で検索してみると、162 例が得られたが、これらの例には次のような特徴が観察された。

まず 162 例のうち 53 例で č ügüj. と č に ügüj が後続する形になっており、さらに č の前には疑問詞がくるものが 13 例、neg 「一」がくるものが 5 例ある。離れた前の位置に疑問詞があるものもさらに多くあり、これらはいずれも全部否定を示すものと考えられる。疑問詞と neg 「一」に ügüj の後続した例を 1 例ずつ挙げておく。

- (19) Či, čamaas öör xen č ügüj.  
you you.ABL other who CUM nonexist  
「おまえ、おまえ以外には誰もいない」

- (20) Juu juu=güj evd-e-ž exl-e-x-e-d  
what what=nonexist break-E-CVB.IPFV start-E-PTCP.IPFV-E-DAT  
coči-n zevüüc-ee=güj xün neg č  
be.surprised-CVB.SIM be.afraid-PTCP.PRS=nonexist man one CUM  
ügüj.  
nonexist  
「何でも壊し始めた時に驚き怖れない人は一人もいない」

単に形動詞に č ügüj. が後続している例も多かったが、これは次のような例である。

- (21) Erge-ž xar-san č ügüj.  
turn-CVB.IPFV see-PTCP.PFV CUM nonexist  
「振り返って見もしなかった」

他には ~č ügüj, ~č ügüj. と繰り返しになっている例が 6 例ある。

- (22) Dolgor xödöl-sön č ügüj duugar-san č ügüj.  
PN move-PTCP.PFV CUM nonexist speak-PTCP.PFV CUM nonexist  
「ドルゴルは動きもしなかったし、声を出しもしなかった」

č ügüj. でない例を 1 例示しておく。

- (23) Öör-öör xel-bel ü! ilr-e-x nuuc  
 other-INS say-CVB.COND NEG emerge-E-PTCP.IPFV secret  
 ene delxij-d ügüj.  
 this world-DAT nonexist

「言い換えれば、明らかにならない秘密はこの世界に存在しない」

この例は一般論を述べたものになっている。全例を確認したわけではないが、このように ügüj. による存在の否定は全否定や恒常的な否定を示す特性を持っていると考えられる。話者にもそのように感じられるという。

#### 8. jaax ve / jaaxav の取る構文 (jaa-x「どうする-ptcp. ipfv」)

小沢 (1983: 604) に Ijm jumyg xijlgüj jaax ve? 「こういうことをしないでどうしよう (もちろんするよ)」という例が挙げられていることからわかるように、jaax ve (およびその融合形 jaaxav) は文末に用いられて反語的な表現を形成することができる。ここでは jaaxav. (やはりドットを含む文末のもの) を検索することによって、jaaxav. がどのような構文をとるのか観察する。

検索の結果は 183 例であった。このうち -lgüj jaaxav. となっているものは 60 例あり、そのうち 16 例は Tege-lgüj jaaxav. であった (teg-e-x「そうする」)。小沢 (1983: 604) によれば Tegelgüj jaax ve! 「もちろんそう (すべき) だ」の意で、これが慣用的な表現となっていることがわかる。他の動詞は baj-「ある、いる」12 例、bol-「なる」8 例、mede-「知る」3 例、xij-「する」2 例、gar-「出る」2 例、tani-「識る」2 例、xičee-「励む」2 例、dajra(-lda)-「攻撃する、引っ掛ける、ぶつける (+相互)」2 例であった (1 例の動詞は省略)。baj- と bol- の例を示す。なお baj- にはアスペクトの補助動詞となっているものもあった。

- (24) Xün-ij dotor sajn muu baj-lgüj jaa-x=av.  
 man-GEN among good bad be-NEG do.what-PTCP.IPFV=QP  
 「人の中には良いのも悪いのももちろんいる」

- (25) Ter bolo-lgüj jaa-x=av.  
 it become-NEG do.what-PTCP.IPFV=QP  
 「それはもちろん大丈夫だよ」

jaaxav の直前に位置する否定形はほとんど -lgüj によるもの (60 例) だったが、-xgüj も 4 例あった。山越 (2022: 156) は -lgüj について「-lgüj は未来連体形の否定 -xgüj と大きく意味は変わらない、ただし -sangüj 同様「本来行われるはずのないことが行われていない」ことを含意する」(筆者要約による) としている。jaaxav の直前に -lgüj が多いことには、こうした含意の実現が関わっているのかもしれない。山越 (2022: 159) では -lgüj について (上記のニュアンスを伴った上で) 「~せずに」と訳される意味で他の動詞に続くとしている。このように -lgüj は jaaxav に先行する傾向が強いという特性を持つ点でも -xgüj と異なっていることがわかる。しかし -xgüj が連用的に修飾する例も存在することがわかった。ここには -xgüj の例も示しておく。

- (26) Bi tolgoj doxi-ž tani-x=güj jaa-x=av.  
 I head nod-CVB.IPFVV recognize-PTCP.IPFV=nonexist do.what-PTCP.IPFV=QP  
 「私はうなずいておいて識らないでどうする」  
 (なお後続の文脈は「識っているどころか、すごくよく識っているよ」である)

-lgüj 以外の先行要素ではまず č が圧倒的に多く、34 例あった。これに対し、l, n', bol, bas など他の小辞はわずかにしか観察されなかった。~č jaaxav. は基本的に話し手が聞き手に対等な立場で同意していることを示すが、文脈によって「~は置いといて」~「~はどうでもよいが、、、」~「~は気にするな」~「~は全く OK だ」など多様な意味になるようで、母語話者でない筆者にとっては個々の例の解釈は難しく感じられた（下記の例の訳文は話者の意見を参考にしている）。č の前には名詞類のみならず動詞の形動詞形や副動詞形も現れる。

(27) Za ter č jaa-x=av.  
INTJ that CUM do.what-PTCP.IPFV=QP  
「さあ、それは置いといて、、、 / さあ、それはどうでもよいが、、、」

(28) Či namajg al-a-x č jaa-x=av.  
you I.ACC kill-E-PTCP.IPFV CUM do.what-PTCP.IPFV=QP  
「おまえがオレを殺すのはまあともかく、、、」

(29) Teg-vel č jaa-x=av.  
do.so-CVB.COND CUM do.what-PTCP.IPFV=QP  
「それなら OK だ / それならいいよ、気にするな」

jaaxav の前に現れる動詞の形式に注目すると、先行副動詞 -AAd によるものが多く、23 例あった。č を伴っているものもあった。それ以外の動詞形は少ない。

(30) Čuxam xel-eed jaa-x=av.  
surely say-CVB.PFV do.what-PTCP.IPFV=QP  
「本当に、言うまでもないね！ / 本当にその通りだね / そうだよね！」

(31) Emneleg ge-ž xudal jari-ad č jaa-x=av.  
hospital say-CVB.IPFV lie tell-CVB.PFV CUM do.what-PTCP.IPFV=QP  
「病院だなどと嘘をついても意味がないよ」

以上のように、jaaxav は共起する形式によって反語や同意など多様な（特にモダリティ的な）意味を実現する形式であることがわかる。

## 9. 即時アスペクト -AAdAx-

この語幹拡張型の文法的派生接辞<sup>4</sup>は、山越 (2022: 265) によれば「動詞があらわす状態を「いますぐに遂行する」状態を示し、もっぱら話し言葉で、しかも命令形の各形式で多く用いられる、未来連体形 (-x) で使用されることはない」という。

この接辞のコーパスでの現れをみる。母音調和による異形態を考慮し \*aadax\* / \*eedex\* / \*oodox\* / \*öödöx\* で検索するとそれぞれ 58/5/7/11 例、合計でひとまず 81 の用例を得た。しかしまず \*aadax\* の

<sup>4</sup> なお塩谷 (2007: 178) は「この即時アスペクト接尾辞 {-aadax-} は、一般に、動詞の分離連用語尾 -aad《~して(から)》と補助動詞 orxi- 《~しまう (<置いておく)》の二つの形態素が結合し、縮約した結果成立したと考えられる」としている。

例については *naadax* 「遊ぶ」、*naadax'* 「こちら側の、その人」、*caadax'* 「向こう側の」、*am'sgaadax* 「喘ぐ」、*baraadax* 「傍にいる」のようなノイズを含んでおり、これを除くと残ったのは4例であった。*\*eedex\** でも *sereedex* 「フォークでつかむ、銚で捕まえる」、*širveedex* 「(寒さや疲れで体が) 弱る」のようなノイズがありこれを除くと3例、*\*oodox\** でも *žoloodox* 「手綱を捌く、運転する」、*goodox* 「着飾る」を除くと1例、*\*öödöx\** では *xöödöx* 「煤を塗る」、*nögöödöx* 「正にそのもの」、*möröödöx* 「他のもの憂愁・哀愁に沈む、思慕する」、*xöröödöx* 「鋸をひく」を除くと1例も残らなかった。したがって異形態ごとでは4/3/1/0例となり、結局この接辞について得られた例は合計8例のみであった。話者より *-AAtAx-* という異形態もあると伺い、調査したところ23 (19/1/2/1) 例あったが、やはりノイズがあり残ったのは9 (5/1/3/0) 例のみであった。少なくとも文学作品を中心とした書き言葉中心のこのコーパスでは、この接辞はほとんど使用されていないことがわかる。

この接辞が付いたホストの動詞は *xar-* 「見る」が2例あった他はバラバラで1例ずつであった。この接辞がとっていた語尾は *-jA* [1 人称希求形]、*-IAA* [定動詞完了形]、*-sAn* [完了形動詞形] がそれぞれ2例ずつ、他は *-AAč* [軽い命令形]、*-vAl* [条件副動詞形] であった。*-sAn* の1例は *V-sAn čin'* による条件用法である。命令、希求などのモダリティ形式や条件形式が多く、このことはやはりこの接辞の口語的な性格を反映したものとみることができよう。以下語形の全例を示す：*xar-aadax-''ja* 「すぐに見よう」、*xar-aadax-laa* 「すぐに見た」、*xjarg-aadax-san* 「すぐに剪った」、*xašgir-aadax-san (čin')* 「すぐに悲鳴をあげたら」、*üzüül-eedex-eeč* 「すぐに見せて」、*erg-eedex-vel* 「すぐに回したら」、*belčee-g-eedex-''je* 「(家畜を) 牧場へ草を食みに行かせよう」、*ol-oodox-loo* 「すぐに見つけた」。

文例も2例挙げておく。なお *-AAdAx-* のグロスは *-AADAX-* とした。

- (32) Bi č ge-sen durang-aar n' temee-g-ee bas  
I CUM say-PTCP.PFV telescope-INS 3POSS camel-E-REFL FP  
*xar-aadax-''ja* ge-ž bod-o-n,  
see-AADAX-COHOR say-CVB.IPFV think-E-CVB.SIM  
「私も『望遠鏡でラクダもすぐに見よう』と、」

- (33) Jamar č ge-sen ol-oodox-loo,  
what.kind.of CUM say-PTCP.PFV find-AADAX-IND.PFV  
「(どんなのでも) とにかく見つかった?、」

## 10. 暫時アスペクト *-sxij-*

*-sxij-* について山越 (2022: 266) は「「しばらく～する」「少し～する」という意味をあらわし、完了連体形 *-AAd* で用いられる例が比較的目立つ、やはり話し言葉で用いられるケースが多い」(筆者要約による) としている。

*\*sxij\** で検索したところ、872例を得た。

これについて、まずこの接辞をとるホストとなっていた動詞について分析する(ただし4例以下のものについては扱わなかった、なお5例以上の語の例の合計は全体の約5%を占めていた)。しかしこのうち以下の325例は *s* に終わるオノマトペに *xij-* 「する」が連続したものが一語に綴られていたものと考えられるため、暫時アスペクト接辞の *-sxij-* によるものではない(なお形式の後ろの数字は用例数である)：

*uxasxij-* 「跳び上がる、急にとび出す、とびかかる」 < *uxas xij-* 「しばしば跳び上がる」 180, *tasxij-* < *tas xij-* < *tas* 「ドカーン、バーン、パチパチ」 53, *gjalsxij-* 「ピカッと光る」 (< *gjals gjals xij-* 「ピカピカ・チカチカ光る」) 48, *časxij-* < *čas xij-* 「(女、子供が) キャツキャツと高い声を出す、(筋肉が) チクチ

クする」 15, *tüsxij*- < *tüs xij*- 「ドサッと音がする」 10, *namsxij*- 「不意に曲がる、一時静まる」 < *nams xij*- 「上下に揺れる、間断なく曲がる」 8, *njasxij*- < *tas njas xij*- 「ドカンという」 6, *navtasxij*- 「不意に下に曲がる、かがむ」 < *navtas xij*- 「ずんぐりしたものが絶え間なく動く様子」 5。

次に残りの 547 例についてみる。まず以下の 4 つの動詞は *-sxij*- が接続した形で辞書 (小沢 (1983)) にあがっており、*-sxij*- を除いた形そのものは動詞語幹としては挙がっていない。しかしその語源と考えられるものは存在する :

*amsxij*- 「少し休む」 (<? *amr*- 「休む」) 39, *öndösxij*- 「突然腰を上げる、起き上がる」 (< *öndij*- 「起き上がる」) 18, *mexesxij*- 「辞儀をする、膝をかがめてていねいなお辞儀をする」 (<? *mexij*- 「お辞儀する」、なおさらに *mesij-sxij*- 「軽くお辞儀する」がある) 10

次に、*Xsxij*- の形で辞書にあがっているが (このことはその形式がある程度以上の高い頻度で出現することを物語っていると思われる)、そのホストの *X*- も辞書 (小沢 (1983)) に見出されるものである : *zajlsxij*- 「(一瞬) 避ける、のがれる、ためらう」 (*zajl*- 「避ける」) 14, *bajxsxij*- 「しばらく待つ」 (*baj*- 「いる、ある」) 14, *dürsxij*- 「(動作・行為が) 急に始まる」 (*dür*- 「入れる、浸す」) 10

残りのホストの動詞を例数の多かった順に示せば以下のとおりである :

*zar-sxij*- 「仕事を他人にやらせる、使う、派遣する」 「商売する、販売する」 30, *zur-sxij*- 「描く、擦る」 16, *jaa-sxij*- 「如何にする、どの様にする」 12, *ojrto-sxij*- 「近づく、接近する」 10, *xuv'-sxij*- 《辞書 (小沢 (1983)) になし》 9, *coči-sxij*- 「驚いて身震いする、驚く」 9, *inge-sxij*- 「こうする、このようにする」 7, *ani-sxij*- 「目を閉じる、穴が自然に埋まる」 *gajxa-sxij*- 「当惑する、怪しむ、驚く」、*ge-sxij*- 「～と言う」 6, *jar-sxij*- 「押し分ける、押しひける、切る」 5, *mana-sxij*- 「覆う」「見張る、用心する」 5, *xoldo-sxij*- 「遠くなる、別れる」 5, *sorto-sxij*- 《辞書 (小沢 (1983)) になし》 (< *sortojx* ?? 「(動物が) 耳をそばだてる」) 5, *zovni-sxij*- 「(自ら) 悲しむ、苦しむ、心配する」 5, *baraada-sxij*- 「傍にいる、頼る」「薄暗くなり過ぎる」 5

以上ホストの動詞について分析した。物理的な位置の継続/変化 (「避ける、近づく、押し分ける、覆う、遠くなる、傍にいる) や感情の生起 (「驚く、当惑する、悲しむ) を示すものが多いことがわかる。

次に *V-sxij* の取っている語尾について分析する (なお以下の数値は便宜上オノマトペに由来するものも含んで分析したものであることを断っておく)。

表 1 : *V-sxij*- の取っていた屈折語尾 (頻度の低い屈折形式は「その他」(71(約 8%)) とした)

屈折形式	全体に占める割合	具体的形式とその例数
副動詞形	620 (約 71%)	<i>-sxij-n</i> 347, <i>-sxij-ž</i> 115, <i>-sxij-g-eed</i> 96, <i>-sxij-tel</i> 35, <i>-sxij-xed</i> 18, <i>-sxij-vel</i> 2, <i>-sxij-xeer</i> 2, <i>-sxij-megc</i> 2, <i>-sxij-vč</i> 2, <i>-sxij-seer</i> 1
形動詞形	99 (約 11%)	<i>-sxij-x</i> 39 <i>-sxij-x=güj</i> 2 <i>-sxij-x-ijn</i> 3, <i>-sxij-sen</i> 30, <i>-sxij-sn-ee</i> 18, <i>-sxij-deg</i> 5, <i>-sxij-lgüj</i> 2
定動詞形	82 (約 9%)	<i>-sxij-v</i> 59, <i>-sxij-lee</i> 11, <i>-sxij-ne</i> 7, <i>-sxij-žee</i> 5

<sup>5</sup> *Mongol xelnij ix tajlbar tol'* (<https://mongoltoli.mn/dictionary/detail/114530>, 最終閲覧日:2023年3月10日) には *xuv'* について「落ち着いていた人の顔などが突然に変化する様子」という記載がある。このことは査読者の方の一人より情報をいただいた。記して感謝申し上げたい。

まんべんなく様々な屈折形式をとって現れていることがわかる。ただし命令形や希求形は現れなかった。山越 (2022) が多いとしていた -AAd 副動詞形は 96 例で、これは全体の 11% を占めるが他の副動詞形に対して際立って多いわけではない。ただし今回の調査は文学作品を中心とした文語コーパスによるものなので、口語の実態を反映しているとはいえない。オノマトペ由来の動詞や語彙化した動詞に一定の副動詞形が偏っているのではないかと、という疑念も生じたので -n, -ž, -eed の各副動詞形でデータを検索し直したり、頻度の高い動詞語幹で検索し直してみたが、特に目立った偏りはなかった。文学作品にも登場人物による会話文は含まれており、上記のデータはやはり V-sxij- の取る語尾の状況をある程度反映しているものと考えられる。副動詞形、形動詞形、定動詞形の例をそれぞれ 1 例ずつ挙げておく。なお -sxij- のグロスは -SXIJ- とした。

- (34) Neg toxoj-d galuu nugas olon baj-sn-yg  
 one elbow-DAT goose duck many be-PTCP.PFV-ACC  
 ojrto-sxij-n oč-ood gurvuul zereg xarva-ž,  
 approach-SXIJ-CVB.SIM go-CVB.PFV by.three simultaneous shoot-CVB.IPFV  
 「ある川の湾曲部にガチョウやカモがたくさんいたのを、近づいて行ってから三人で同時に撃つて、」

- (35) Cog-ijn gerel xaajaa xaajaa  
 ember-GEN light occasionally occasionally  
 süümelze-sxij-x n' xara-gda-v.  
 sparkle-SXIJ-PTCP.IPFV 3POSS see-PASS-IND.PST  
 「残り火の光が時折きらめいているのが見えた」

- (36) Cedeng-ijn uur dür-sxij-lee.  
 PN-GEN anger put-SXIJ-IND.PFV  
 「ツェデンは急に怒りだした」

なお -sxij- にさらに完遂アスペクト形式の -čix- が後続した例が 1 例観察されたので、その例を示しておく。

- (37) Ažil-d-aa geldr-eed l ge-sxij-čix-eed  
 work-DAT-REFL go.slowly-CVB.PFV FP say-SXIJ-ČIX-CVB.PFV  
 xarin bi ene sonin-oos šagnal-aa  
 while I this newspaper-ABL prize-REFL  
 av-čix-laa ta xojor-yg-oo dajl-na=a  
 get-ČIX-IND.PFV you two-ACC-REFL treat-IND.FUT=SPF

「仕事に行っているということにしていたんですが、この新聞社から賞をいただきましたので、お二人ともごちそうさせていただきます。

## 11. 語幹拡張の文法的派生接辞の相互承接

Bybee (1985) の研究にあるように、一般に動詞複合体における文法カテゴリーは語幹に近い方から [動詞語幹-ヴォイス-アスペクト-テンス-モダリティ-人称] のような順序を取るとされている。モンゴル語は日本語とほぼ同様に、テンスやモダリティは屈折形式もしくはそれに後続する付属語などで標示し、ヴォイスやアスペクトは語幹拡張の文法的派生接辞や補助動詞によって標示している。日本語では

-(s)ase-rare-te i-, -(s)ase-rare-te simaw- のように[使役-受身-アスペクトの補助動詞]のような順序を示し、しかもアスペクトの補助動詞はVてる、Vちゃう、のように縮約を示し、接辞的にもなっている。

ここではモンゴル語において比較的生産性の高いヴォイスとアスペクトの語幹拡張の文法的派生接辞のうち、受身 -gd-、使役 -UUI- /-lgA-、完遂 -čix-、暫時 -sxij- の4つの接辞について、その全ての組み合わせを検索し、これらの接辞の間での相互承接の状況を明らかにすることを目指した。ただしヴォイス同士の組み合わせについてはすでに先行研究に記述があるので行わなかった。

なお即時 -AAdAx- についても上記の4形式との組み合わせを全部検索してみたが、見つかった相互承接の例は下記の2例 (-üül-eedex-, -uul-aadax- : 使役-即時) のみだった。

- (38) Xarin čī naadax nömörög-öö tajl-aad erxemseg  
while you that coat-REFL take.off-CVB.PFV honorable  
Madljen-y zaa-san jos-oor bije-e üz-üül-eedex-eeč.  
PN-GEN suggest-PTCP.PFV logic-INS oneself-REFL see-CAUS-AADAX-IMP

「一方であなたはそのマントを脱いで、尊敬すべきマドレーヌの指示に従って姿を現して下さい」

- (39) Xarin čī nögöö ax-taj-g-aa  
while you that e.brother-COM-E-REFL  
tani-lc-uul-aatax-na ge-sen čin' jaa-san,  
get.acquainted.with-RECIP-CAUS-AATAX-IND.FUT say-PTCP.PFV 2POSS do.what-PTCP.PFV

「あなたはあの人を紹介してくれると言ったけど、(あれは) どうしたの」

まず[ヴォイス-アスペクト]の相互承接をみると、やはりこれが一番多く、次のような組み合わせの例が観察された(数字は例の数): [使役-完遂] -uul-čix- 98, -üül-čix- 48, -lga-čix- 24, -lge-čix- 2, [使役-暫時] -uul-sxij- 8, [受身-完遂] -gd-čix- 44。他方、-lgo-čix-, -lgö-čix-, -üül-e-sxij-, -lga-sxij-, -lge-sxij-, -lgo-sxij-, -lgö-sxij-, -gd-e-sxij- の組み合わせはなかった。ちなみに \*uul\*+\*üül\*+\*lg\*, \*gd\*, \*čix\* \*sxij\* を検索するとそれぞれ 41388 (12237+7114+22037) 例、11506 例、3428 例、872 例であるので、おおよそ個々の形式で頻度の高い形式を組み合わせたものほど高い頻度で現れているということが出来る。

- (40) morin-y süül xödölgö-x tödij sažl-uul-sxij-n  
horse-GEN tail stir-PTCP.IPFV so stir-CAUS-SXIJ-CVB.SIM  
tedn-ijg xülee-žee.  
they-ACC wait-IND.RES

「馬の尻尾を動かしているのをそうして少し揺り動かしながら彼らを待っていた」

次に[アスペクト-ヴォイス]の相互承接をみると、こちらは少なく、-sxij-lgA- の承接が28例得られたのみで、-čix-gd-, -čix-üül-, -sxij-gd-, -sxij-g-üül- の例は得られなかった。たとえ頻度の高い接辞同士の組み合わせでも、[ヴォイス-アスペクト]の順序のものは多く見られても、[アスペクト-ヴォイス]の順序では起こりにくいことがわかる。-sxij-lg- の承接だけに例があるのは、そのほとんどが10節でみたようなオノマトペ由来の動詞や語彙化した動詞であるためである(このことについては上記の28例について目視で確認した)。

[アスペクト-アスペクト]の相互承接は上記の10節でみた -sxij-čix- の1例(例文(37))のみで、-čix-e-sxij- は観察されなかった。

総じてやはりモンゴル語の語幹拡張の文法的派生接辞の相互承接においても、[ヴォイス-アスペクト]の順序の組み合わせが優勢であることが確認できた。

### 略語一覧 (Leipzig Glossing Rules にないもののみ示す)

ADJLZ: adjectivalizer 形容詞化 / COM: comitative 共格 / CUM: cumulative 累加 / COMPL: completive 完遂 / E: epenthetic 挿入 / FP: focus particle 焦点小辞 / INTJ: interjection 間投詞 / PROP: proprietive 所有 / QP: question particle 疑問小辞 / SFP: sentence final particle 文末小辞 / RES: resultative 結果 / SIM: simultaneous 同時

### 参考文献

- Bybee, J. L. (1985) *Morphology, a study of the relation between meaning and form*. TSL 9. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Janhunen, J. (2012) *Mongolian*. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 風間伸次郎 (2013) 「アルタイ型言語における感情述語」『北方人文研究』6: 83-101.
- モンゴル国立大学モンゴル語研究室 (編) (1989) 『モンゴル語教科書 (外国人向け)』小沢重男監修・岡田和行 (編訳) . 東京外国語大学語学教育研究協議会
- 中嶋善輝 (2015) 『平成 27 年度言語研修 モンゴル語研修テキスト 2 明解モンゴル語文法』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 岡田和行・向井晋一 (2006) [2016 改訂]. 「東外大言語モジュール: モンゴル語文法モジュール」
- 小沢重男 (1983) 『現代モンゴル語辞典』東京: 大学書林
- 塩谷茂樹 (2007) 『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』大阪: 大阪外国語大学研究推進室編集部門
- 山越康裕 (2022) 『詳しくわかるモンゴル語文法 [新版]』東京: 白水社

執筆者連絡先: kazamas@tufs.ac.jp

原稿受理: 2022 年 12 月 21 日